



議会報告 128 2008年7月15日



発行 / 日本共産党  
那珂市議会議員  
**木村 静枝**  
菅谷 4494-1  
TEL/FAX 029-298-2064

国民の立場でわかりやすく  
真実を報道し解決策を示す

**しんぶん 赤旗**

日刊 2900円 / 日曜版 800円  
ぜひお読みください

# 今度は市民税も年金から天引き

## 木村静枝議員は反対

平成20年度第2回那珂市議会定例議会が6月3日から13日まで11日間開催されました。

報告事項の中に「個人の市民税における公的年金等に係る特別徴収制度の創設」がありました。これは、65歳以上の老齢基礎年金受給者の方の個人市民税を年金から天引きするというものです。実施時期は平成21年10月支給分からです。今までも介護保険料や後期高齢者医療制度の保険料が天引きされています。徴収する側にとつては効率的でいいかもしれませんが、少ない年金から何でも天引きされてしまったのでは生活していけません。木村静枝議員はただ一人でしたが反対をし、討論を行いました。今回の一般質問は前回より4名多い11名でした。

《一般質問をした議員》

木村静枝、助川則夫、先崎光、笹島猛、小沼博恭、石川利秋、遠藤実、君嶋寿男、蝦名純子、海野徹、高畑道英

### 一 中学区にコミュニティーセンター 新築 土地代含め4億円

平成20年度から建設を予定している一中学区コミュニティーセンターは一般競争入札の結果、岡部・浅川共同企業が3億円で落札しました。落札率は96・77%です。土地代は9174万円です。

(第1回)

番号	業者名	金額
1	日立土木・森島JV	305,000,000
	岡部・浅川JV	300,000,000
3	昭和・西山JV	307,500,000
4	鈴縫・清水JV	307,600,000
5	秋山・高野JV	307,000,000
6	横建・山金JV	308,500,000
7	井上・鶴田JV	306,100,000

### 陳情・請願

#### 後期高齢者医療制度の中止・撤廃を求める請願書

紹介議員 木村静枝

#### 結果 継続審査

「継続審査」の結果について木村静枝議員は次のように討論をし、反対しました。

全国の世論調査などで「後期高齢者医療制度」について「評価しない」が70%以上にものり、「評価する」は18%という結果がでています。地方議会では中止や見直しを求めている意見書など可決した議会は570議会にもなっています。また、全都道府県医師会に半数を超える27医師会が「反対」「慎重な対応」など批判的な態度を表明しています。那珂市議会も一日も早く住民の意向をくんで国に意見書を提出すべきです。国の決定を待つのではなく、地方から声をあげ、国民の声を届けることが大切です。

### 瓜連支所分庁舎の貸し付け 那珂医師会と郵便局株式会社に

那珂市は庁舎空スペースの有効活用を図るため、5月1日から瓜連支所分庁舎二階の一部を那珂医師会に貸し付けました。また、一階の一部を郵便局株式会社に貸し付けます。5年契約で更新していきます。

### 木村静枝の 一般質問

#### 小学六年生まで医療費の無料化を

今年4月から那珂市も入院費だけは小学六年生まで無料化が実現しました。

今、子供の医療費を公費で助成する自治体が増えています。ここ10年間で助成している市町村は3%から77%になりました。茨城県内では神栖市が中学三年生まで医療費が無料です。東海村や城里町、古河市は小学校六年生までです。古河市は病院窓口で医療費を払わなくてもいい現物給付です。子供の病気は突然のことも多く、お金を持たないで病院へ駆け込むことができることは、親にとって大変助かります。今、若い親たちは経済的に大変で、子育てに苦労しているので、せめて子供の医療費だけでも無料であつたらと願っています。ある大学教授の調査に

よると、子供の「うつ」が急激に増えているということ。うつを治すには入院や通院で約1年間かかるということですが、適切な治療が行われなければ、青年、あるいは大人になってから再発したり、対人関係や社会生活に支障をきたしたりしてしまうということ。木村議員は「せめて小学六年生まで、通院も含めた医療費の無料化と、あとからお金もどってくる償還払いでなく、現物給付にしてはと思うがどうか」と質しました。

保険福祉部長は「あくまで償還という形になるのかと思う。現在の財政事情では無料化は難しいと感じている」という答弁で、ネックは財政ということ。木村議員は「妊婦検診は14回がのぞましい」と厚労省は言う

## 「妊婦検診は14回がのぞましい」と厚労省は言う 那珂市は今年から5回になったが14回に増やせないか

税金で助成される妊婦検診の回数が市町村によって16回から1回までと大変ばらつきがあります。母体と胎児の健康をチェックする妊婦検診は1回当たり数千円から1万円以上かかります。医療保険が使えず自己負担なので、経済的な理由などから、一度も検診を受けず、最後に病院に駆け込む「飛び込み出産」が問題化しています。

検診助成は妊婦にとって物心両面の効果があります。厚生労働省は昨年1月、市町村に「妊婦検診の助成は14回程度が望ましいが、最低限必要なのは5回」と通達を出しています。それ以降、拡充の流れが広がっています。那珂市も今年の4月から2回だった助成が5回になりました。

木村議員は「国が公費助成は14回が望ましいというのであれば、国の政策として実施してほしいが、

とりあえず那珂市として妊婦検診を14回に引き上げてはどうか」と質しました。

保健福祉部長は「財政状況に応じて5回までであればやらなくてはならないだろうということ。当然の間、5回を実施していきたい」ということで、ここでも財政との兼ね合いということ。木村議員は「妊婦検診は14回がのぞましい」と厚労省は言う

## 実施していないのは7市町村だけ 難病患者見舞金制度

### 市長 来年度から前向きで考えていく

難病患者に対する見舞金制度が県内各地で進んでいます。現在茨城県内44位町村の中で37市町村が実施、未実施は那珂市を含め7自治体になっています。支給額は各自治体まちまちで、多いところは月額4000円から少ないところは年間1万円となっています。本来は県の制度として県内一律の支給にすべきです。

木村議員は「那珂市の難病患者は現在266名とのことですが、難病患者の痛みをみんなで分かち合うということが大切であり、ぜひ見舞金制度を実施してほしい」と強く要求しました。

市長は「これは本当に県が統一してやるべきだと思っている。県に要望していきたい。また、市としても、来年度から前向きな姿勢で考えていきたい」と積極的な答弁がありました。

### 日本共産党「なんでも電話相談」(無料)

市政への注文、なんでも生活相談、医療、子育て、その他でお悩みの方、お気軽にお電話下さい。もちろん個人の秘密は厳守します。

電話 029-2998-2064

那珂市議会議員 木村静枝

## ニュース問答 国は乳幼児医療費無料制度をつくれ

**はるか** 子どもの医療費を公費で助成する自治体がふえているね。

**みどり** 小学校に上がる前までの医療費の助成はもう当たり前になっているわ。通院にかかる費用を「就学前まで」やそれより高い年齢まで助成している市区町村数は、この十年で3%から77%まで増えたの。

**はるか** すこいわ。子どもは、風邪や伝染病にかかりやすいから、医療費の助成は切実ね。すべての自治体で実現するようにできないのかしら。

**みどり** 乳幼児医療全国ネットワークが、国の制度の創設を求めて、全国で粘り強く運動をすすめているわ。

**はるか** この間も、乳幼児を連れたいお母さんや医療関係者が国会内で集会を開いていたよね。

**115万の要請署名**  
**みどり** そう、国ができるだけ早く乳幼児医療費の無料制度をつくるよう、百十五万人の国会要請署名を集め、四割の自治体に意見書を探らせてきたの。

**はるか** 助成制度を拡充する都道府県も増えているのに、国が一番、遅れているのね。

**みどり** 社会問題になっている少子化の大きな原因が、子育てにお金がかかることだといわれているの。

**はるか** 若い世代で非正規雇用が増え、貧困が問題になっているわ。

**みどり** 市区町村は助成対象年齢を引き上げたり、病院窓口で医療費を払わなくてもいい現物給付制度を実施してきたの。でも国は自治体まかせよ。

**はるか** あら、ひどいわね。  
**みどり** それどころか、現物給付をしている自治体へ国民健康保険の国庫負担金を減額するペナルティーをしているの。

### 軍事費を削れば

**はるか** 日本共産党の小池晃議員が国会質問して、就学前の子どもの医療費無料化実現のための経費は千五百億円あればいいことが分かった。

**みどり** たしかイージス艦が一隻千四百億円だったよね。

**はるか** 軍事費を少し削れば実現するわよ。新婦人が舂添厚労大臣に要請したときに、財務省にお金を出させることを発言したわ。

**みどり** 早速、約束を果たしてもらわないとね。

二〇〇八年六月二日  
「しんぶん赤旗」より